

No.	資料No.	分野	頁	該当箇所	意見等の趣旨	委員	対応の方向性	原案の修正案
1	資料3 参考資料 2	全体	資料 3(p.3) 参考資料2	市民アンケート評価の 基準	市民アンケート結果（市民の評価）の総括について 絶対評価と相対評価が混ざっているため矛盾が生じやすい。 相対評価なら相対評価で統一すべきである。  また、絶対評価と相対評価を両方入れるのであれば点数化 する方法もある。 アンケートの回答項目（5択）にそれぞれの回答ごとに点 数をつけ集計する方法も一案である。	松永委員	評価基準を簡明化し、評価の基準（区分）を 判断するうえでは、肯定／否定の差を相対的 に評価します。 肯定＞否定の差が ①＋20%以上→「評価が得られた」 ②＋5%以上＋20%未満→「ある程度評価 が得られた」 ③±5%未満→「評価が分かれた」 ④－5%以上－20%未満→「あまり評価が 得られなかった」 ⑤－20%以上→「評価が得られなかった」  なお、 ・①のなかでも過半数（50%）を超える肯定 的回答を得られたものについては、評価基準 からは除外し、政策評価シート「市民アン ケート全体傾向」における記述に反映させる こととします。 （参考資料1及び2）	資料1-2のとおり
2	資料3 参考資料 2	全体	p.3	市民アンケート評価の 基準	市民アンケートの結果の分類について「評価が分かれた」 「評価が得られなかった」をどう解釈したらよいか難しい。 一般の人が読んだときに理解が難しいのではと懸念する。	石丸委員	上記No.1の定義とおり、肯定／否定の差を相 対的に評価し、評価の基準を整理します。  なお、施策の柱に複数指標かつ指標の評価が 異なる場合においては、説明文章において評 価が分かれた旨を記載いたします。 （参考資料1及び2）	資料1-2のとおり
3	資料3	全体	p.4	市民アンケート 結果グラフ	市民アンケート結果における「肯定／否定と感じた理由」 について 肯定／否定の選択した割合（%）は母数が異なるにもか かわらず、肯定／否定をそれぞれ隣合わせとしたグラフであ るため、誤解を招きやすい。	岩崎委員	ご意見を踏まえ、アンケート結果のグラフの 表記方法について修正します。 （参考資料1）	資料1-2のとおり
4	資料3	全体	p.4	市民アンケート	評価の透明性が大切。評価する側の都合によって評価を変 えることは避けるべき。なにが課題なのか、市民アンケ ット結果を見えるものにすることが重要である。	林委員	ご意見のとおり、評価の客観性・透明性が重 要と考えており、ご指摘の点を十分に踏まえ 評価を行ってまいります。 なお、政策評価シートでは、市民アンケ ットの結果（実感とその理由）を軸として分析・ 考察を行うこととしております。 また、分析・考察にあたっては、評価が甘く なる方向に偏らないよう、政策企画課がまず 案を作成し、事業所管課の確認を取るプロセ スとしています。	—

第1回政策評価部会における委員意見の対応の方向性

資料1-1

No.	資料No.	分野	頁	該当箇所	意見等の趣旨	委員	対応の方向性	原案の修正案
5	資料4	全体	p. 1	評価結果 市の取組みの総括	目標の達成・未達成についてはコロナ禍の影響を大きく受けているものが多くある。同じ「未達」としても、(やりたかったけど) 制約があっ てできなかったなど、どういう状況でこの未達成という結 果となったのか、ということが分かる考察の表現をしても らった方がよい。	石丸委員	ご意見のとおり、第3次実施計画期間におけ るコロナ禍の影響を鑑み、客観指標の目標達 成状況について丁寧に分析することが重要で す。	-
6	資料5	全体	全体	全体	コロナ感染拡大なかでの3年間であった。目標未達という のはそのとおりであると思うが、考察で使われている図表 などの考察につなげてほしい。グラフは丁寧に読み 取って次の政策につなげてほしい。	鈴木委員	目標の未達成にかかる要因分析(参考資料 3)を踏まえ、今後の事業改善につなげてま いります。	-
7	資料5	全体	全体	全体	コロナを理由とすることについて丁寧な分析が必要 国の政策評価についても未達の結果がほとんどである。 未達の理由はコロナなのか市政によるところなのか、理由 の分析をし、考察で強く意識いただきたい。	貞広委員		-
8	資料5	2-1 健康で活力 に満ちた社 会	p. 4	がん検診受診率	全国的に低下傾向にあるなか、千葉市で上昇しているのは 評価して良いと思う。このことは注目して良いと思う。い ま全国の自治体では、例えばナッジ手法を取り入れたりし ていると聞いている。成功した点は、その要因をしっかり 書き込んだ方が良いと思う。女性の健診の受診率も上がっ ているようなので、コロナ禍で女性が悩んでいるというの も多いと思うけど、こういう行動に結果が出ているのは明 るいことだと思われる。	石丸委員	ご意見を踏まえ、修正します。	・「がん検診受診率」：54.8% (目標：50.0%) [達成] がん検診や健康教育の場で、乳がん検診の自己触診の方 法や、喫煙とがんとの関係性について普及啓発を行うと ともに、 <u>中学3年生を対象にリーフレットを配布するなど、 がんに関する理解を深めるための教育を行った。また、受 診しやすい環境づくりのため、集団検診におけるセット検 診を拡充するとともに、保護者が受診している間のこども の見守りなどを実施したこと等により、受診率が向上した と考えられる。</u>
9	資料5	2-1 健康で活力 に満ちた社 会	p. 6	シート2-1(1)健康づく り 考察	ウォーキングポイントにおける「参加者が継続的に健康づ くりに取り組む仕組みを検討する必要がある。」について 現状、イオンカードのWAONポイントとの交換といった取組 を行っていたかと思うが、今後はこのポイント交換先が広 がりそれがインセンティブとなる仕組みなど、現在の具体 的な取組や成果を書き添えて、今後の方針を書くといい。	石丸委員	ご意見を踏まえ、修正します。	・「地域の健康増進活動が充実している」については、各 区でウォーキングなどの事業に加え、健康づくりに向けた 取組みのインセンティブとしてちばしウォーキングポイン ト事業を実施しているが、否定的な回答の割合が多かつ た。 (中略) そのため、各区の健康増進事業と連携して事業の認知度向 上に取り組むとともに、 <u>ウォーキングポイントとして付与 されるちばシティポイントについてアプリの活用を含めた 利便性の向上等によりインセンティブを高め、参加者が継 続的に健康づくりに取り組む仕組みを検討する必要がある と考えられる。</u>
10	資料5	2-3 ともに支え 合う地域福 祉社会	p. 22	シート2-3(1)地域や社 会に役立つ活動への参 加 関連する客観指標	生活自立・仕事相談センター相談数が増えている。 考察にも他の関係機関との連携強化が重要になると考えら れるとあるが、これは非常に重要である。窓口市民がきた ときにこれが必要だと分かると所内の連携が図られ必要 な窓口に連れて行ける、案内できるなど連携の強化は重要 である。	石丸委員	ご意見を踏まえ、修正します。	① ～相談内容の複雑化・複合化に対応すべく、 <u>庁内の関連部 署はもとより</u> 他の関係機関との <u>一層の</u> 連携強化が重要とな ると考えられる。 ② ・加えて、近年、相談内容の複雑化・複合化や、困難を抱 えつつも支援につながらない方々の存在が顕在化している ため、 <u>ひとりぼっちにしない、</u> 断らない相談支援体制が求 められる状況にある。 そのため、市民が抱える様々な悩み・不安に対して適切に 対応できるよう、 <u>庁内はもとより、</u> 関係機関との <u>連携・協 力のもと、</u> 重層的・包括的支援体制の構築に向けて取り組 んでいく必要がある。

No.	資料No.	分野	頁	該当箇所	意見等の趣旨	委員	対応の方向性	原案の修正案
11	資料5	全体		全体	NP0で子どもルームをやっている。評価のうえでは所管課で声を拾い上げていっていると思うが、事業者を含め360度の評価を得ないと政策につなげられないと思っている。今回の評価シートには不要だが、次期の政策評価につなげてほしい。答申に入れてほしいことは、アンケートの評価について担当のヒアリングもしっかりして政策評価を行ってほしい。	鈴木委員	ご意見のとおり、事業の担い手である事業者の声についても丁寧に拾い上げることは重要と考えます。 事業者アンケートを踏まえ考察を行っている項目だけでなく、事業の実施段階で各所管部署で把握しているものについても、今後の政策評価における分析に活かしてまいります。	-
12	資料5	全体		全体	当事者データと全体のデータに乖離があるものについて恐らく、一般的には全体の評価は千葉市の施策に限定するというよりも、国や社会全体の評価として捉えているのだと思う。 全体のデータの方がマイナスで当事者評価がプラスであることは市の施策ダイレクトに評価してくれているので嬉しいこと。 一方、当事者がマイナス評価となっているのは大事なデータなので次の手立てとして引き取るべき。 子どもルームのサービス数の問題だけでなく、質量的に不満をもっていると思われる。	貞広委員	当事者の評価は、一般的に全体の評価より肯定・否定の傾向が明確になる傾向が見られ、ご指摘のとおり、より市の施策をダイレクトに評価していただいたものとして重視しています。 そのため、政策評価シートを作成するうえでは、肯定／否定と感じた理由において、「全体回答と当事者回答で傾向が大きく異なるもの」は抽出し、分析・考察を行うこととしています。 特に、当事者の否定の割合が全体に比べ高い項目については、政策評価シートにおいて分析部分に特記事項として追記するとともに、改めて結果を所管部署と共有し、その要因を丁寧に分析のうえ改善を図ってまいります。 (参考資料4)	-
13	資料5	2-4 高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会	p. 39	生きがづくり	生きがづくりが必要だというところで、市が高齢者の生きがづくりを提供し続けていくというのは大変。 課題に対して、市の担当セクションだけで課題を解決しようとするのではなく、例えば、子育て支援や働く方の送り迎えなどが必要であれば高齢者が子育てや送り迎えを支援してそこにポイントを付していくなど、課題と課題を掛け合わせ、分野横断的に課題解決を模索する必要がある。	林委員	ご意見のとおり、複合的な課題を分野間連携により解決していくことは重要な視点と考えております。 その下地として庁内がビジョン・ベクトルを共有し政策を立案することが重要であり、基本計画で定めた基本方針、特に戦略的視点の一層の浸透を図ってまいります。 庁内連携については、若手・中堅職員によるワーキンググループや関係部局の協議・調整を行うなどにより、アイデアの創出や連携強化、縦割りの解消などを図っているところですが、まだ結び付けられていない、認識できていない連携可能な課題・施策が多くあるものと考えております。まずは第1次実施計画の事業の推進、進行管理を行う中で、総合政策局としても分野間連携の可能性について検討し、可能なものについて連携強化をはたらかけてまいります。	-
14	資料5	全体		全体	複合的な課題について、ぜひ庁内で課をまたいで課題を考えた方がよい。	石丸委員		-

No.	資料No.	分野	頁	該当箇所	意見等の趣旨	委員	対応の方向性	原案の修正案
15	資料6	3-1 未来を担う 人材を育成 する	p. 8～	いじめや不登校への対 策・対応	<p>福島の小学校へアーティストを派遣する事業を行っている。</p> <p>不登校に関し、児童生徒が、家庭環境の悩みの相談件数の上昇している現象についてであるが、根本的に学校は面白くなく、家でYoutubeを見てた方が面白い。そういう意見があるのが事実。このことをもっとまじめに考えても良いと思う。</p> <p>問題を（本質的に）違うところから切り続けていても解決できない。だから、どうやったら学校を楽しくできたらいいのかということを考えても良い。</p>	林委員	<p>学校では、不登校を起こさせない体制づくりのために、「誰もが行きたくなる学校」「笑顔あふれる学級」を目指しています。そのためには、教職員の授業力や児童生徒の理解力を高めていくことが必要となります。教育センターでは、夏の研修として「楽しい教室づくり」について16講座、「わかる授業づくり」について57講座実施しました。次年度以降も、充実した内容の研修を実施し、受講を推進することで教職員の資質向上を図ることを目指してまいります。</p>	-
16	資料6	3-3 文化を守り、はぐくむ	p. 34～	好きな分野を鑑賞できる機会	<p>文化芸術の評価について</p> <p>自分に関心のないものについては評価がネガティブになりがちであるため、誰が回答しているのかという視点も重要である。評価にあたっては千葉市が20,30代が良いと思っっていることを推していくのか人口割合を加味するものか、表記の仕方を考えてほしい。</p>	林委員	<p>本市では、文化芸術について、様々な年代の方のニーズを捉えながら施策を展開しているところですが、ご意見を踏まえ、当該シートの考察部分において、各年代に評価いただけるような、多様な鑑賞等の機会を提供していく旨を追記します。</p>	<p>基本的な感染症対策を徹底したうえで、地域の特色を活かした文化芸術プログラムの実施など、美術館以外での鑑賞機会の充実や、国内有数の音楽フェスが多数開催される都市であること等の本市の特色を活かした文化芸術活動にふれあう機会や参画できる機会の提供等、各年代のニーズを見極めながら、市内の様々な場所を活用し多様な鑑賞の機会をホール内外で提供していくことが必要である。</p>
17	資料5 資料6	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産子育て、仕事との両立について一定の企業では環境整備が進んでいる一方、中小企業やフリーランスは厳しい面も。市としての対応が求められるところである。実態をしっかり把握して明らかにすることが重要。市民アンケートも、勤め先の企業の規模、雇用形態までもみながら分析をするなど、今後そういう点を工夫をしたほうが良いのかもしれない。</li> <li>・市民の活力を引き出していく、文化芸術やボラ活動参加を促していくことについて、縦割りで情報を出していても活動する人自身の関心分野以外には広がらない。いろんな領域の事業とか関係者とかが結びつきながら、教育のなかで芸術や地域活性化などいろんな情報が入っていくような仕掛け、情報の流通を広げていくようなことを心掛けた方が良いのかなと思われる。</li> </ul>	浅野委員	<p>ご意見のとおり、市民の実情を具体的に把握することが、政策立案や取組みの改善にあたり重要と認識しております。</p> <p>政策評価にあたり行っている市民アンケートは政策全般の多岐に亘る設問となっており、回収率を確保する観点から設問の追加には慎重な検討が必要となりますが、事業所管部門が実施する調査等も併せ、今後ともニーズを踏まえた事業展開を図ってまいります。</p> <p>また、分野横断的な市民参画の促進につきましては、テーマと地域の両面から越境していくことが重要と考えております。前者の例として、学校における文化芸術体験やキャリア教育、後者の例として地域団体間の情報共有や交流を促進する取組みやチーム千葉ボランティアネットワークの運営を挙げることができそうですが、ご指摘のご趣旨を踏まえながら、実施計画事業の推進を図ってまいります。</p>	-